

国内の綿花栽培

東京ドームほぼ3個分の約14万平方メートル

34都道府県で栽培実績



栽培面積は昨年より4%減少

15、16日に奈良県天理市で開かれた「2025年全国コットンサミット」天理一で、今年10月末時点の「全国綿花栽培概況調査2020」の中間報告が発表された。2025年度の全国の栽培面積は合計13万9134平方メートル、前年度の14万4999平方メートルから減少したことが分かった。栽培実績が確認できたのは34都道府県。地域によって大きなばらつきが見られた。

最大規模は奈良県の9万8200平方メートル、次いで山梨県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県で栽培面積が確認された。一方で、青森県や岩手県、茨城県、福井県、山梨県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県では栽培面積が確認されなかった。前年からの減少した。これに次ぐのが岡山県で1万1695平方メートル、東京都の5453平方メートル、宮城県の5千平方メートル、鳥取県の4千平方メートルが続く。

繊維機械のトレンド射貫く

ITMAアジア+ C-IME シンガポール

編み機では、高付加価値機の新機種が発表される一方、価格を抑えた機種の提案も見られた。

丸編み機の福原産業貿易は、得意とする電子柄丸編み機で新機種を発表し、MILEC 7KS30を展示した。シリンドラー側が3ポジションのダブルニット機で、柄表現の進化とともにファインゲージ化も進め、40針機で実演した。

②

電子柄丸編み機で新機種

取られたシェアを取り戻す戦略機に位置付けられる。部品や調達、設計を見直して徹底的にコストダウンし、日本製で買やすい価格を実現した。

インドやバンクラデシなどの市場に合わせた、発表した新機種は130センチ幅として、中国機では満足できないユーザーに向けた、リーズナブルな価格と信頼性を訴求し、中国機からのシェア奪回を目指す。

靴下編み機のロナテとして、高性能の欧州

培していないケースが多い。群馬県や千葉県、愛知県、岡山県などでは栽培面積が増えた一方、福島県、長野県、大阪府、鳥取県などは減少した。

栽培地の多くは自治体主導や地域団体の活動に支えられており、コットンサミットを通じてネットワークが地場産業の復興や教育活動と連動して広がっている。今回の調査では、

愛される布づくり続ける 120周年記念式典開く

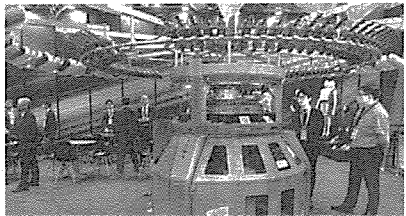
カジュアル衣料向け生地製造のショーワ(岡山県倉敷市)は22日、同市内にあるせとうち児童ホテルで120周年記念式典を開いた。取引先や行政関係者など約150人が社の節目を祝った。

片山雄之助会長は5平方メートル換算で統一して算出した。調査期間は26年1月31日まで、ランターは1株100。

9月の綿糸輸入 前年比5.7%増に 8カ月連続の増加

日本紡績協会が財務省の貿易統計(速報値)を基にまとめた2025年9月の純綿糸輸入は2952トン(前年同月比5.7%増)で、8カ月連続の増加となった。うちカード糸が1714トン(10.2%増)と伸び、コマ増)は1238トンと前年同月と水準だった。インド産コマ糸の急増が目立ち、国内紡績生産減少を背景に、外品への需要が高まっているとみられる。

国別では、ベトナムが871トン(13.1%増)と伸び、中国製の1122型や120センチ幅の122型を展開してきたが、中国メーカーは130センチ幅が多いという。ユニットにした商品で、中国工場(浙江省)で生産する。



靴下消費

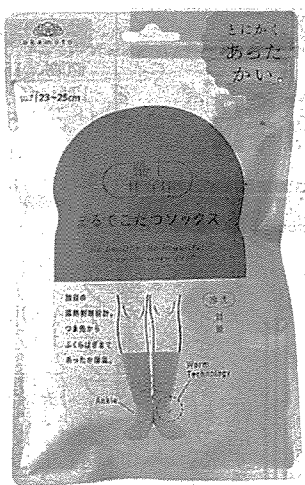
機能重視の傾向鮮明に

物価高で選別消費進む

靴下に機能を求める消費者が増えている。機能商品が記録的な売れを示す一方、ファッション性やトレンドに重きを置いたアイテムの動きは停滞気味のようだ。生活必需品の値上げが続く中、足元の悩みを解決する実用性を優先する消費傾向が

強まっている。今夏、インナー業界でリカバリーウェアの爆発的なヒットが話題になった。一般医療機器の認可を受けたある商品のCMは、疲労回復や血行促進、腰・肩凝りの改善といった具体的な効果、効能を大々アピールし、多く

の消費者の関心を引き付けた。レックウェア業界の近年のヒット商品を見ると機能商品が多い。業界最大手の岡本（大阪府西区）の「コピタ」ブランドの累計販売数は今年7月に1億足を超えた。同社は先月、秋冬の定番「まるでこたつ」シリーズの累計1600万足超を発表している。いずれも機能によるメリットを効果的に消費者に伝えたことがヒットにつながった。



先月1600万足を突破した「まるでこたつ」シリーズ

業界を見渡すとケンゼの「アセドロン」、チユチュアンナ（大阪市中央区）の「まるで素肌」のようなフェイクタイツ（助野（富山県

高岡市）の「らく庄」も累計販売数の大台突破で注目を集めた。これらも全て靴下のデザイン性そのものという以上に、はくことによつて得られる効果・効能で支持を上げ、販売足を伸ばした。ファッション感度の高い国産靴下をそろえるタビオも、昨今の消費に機能重視の傾向が出ていることを認めている。越智勝寛社長は今年10月の会見で「顧客の購入の決め手は今、ファッションの感性の部分よりも機能が先に来ている」と話す。「当社の売り場は他社からも強い関心を示してもらっている。当社の品ぞろえで弱い部分は、他社の商品力を借りて補つという戦略を今後積極的にしていく」と、他社との協業に前向きな姿勢を示した。

「物価高が進み、今

コットンサミット

国産綿花で地域振興

持続可能なモノ作りを発信

綿花栽培を通じて地域課題の解決を目指す「2025全国コットンサミットin天理」が15、16日、奈良県天理市で開かれた。10回目となる今回は「いのちと未来にたねをま

く」をテーマに、生産者や福祉事業者、企業関係者が集い、国産綿花を基盤とした地域循環

環や環境配慮型モノ作りの可能性を共有した。15日の開会式では天理中学校吹奏楽部が中島みゆきさんの「糸」を演奏。それを受け、冒頭に天理市の並河健市長は「糸」が織りなす布のように、傷ついたらも含めて優しく包み込む大会にしたい



綿織り・綿打ち・糸紡ぎ・機織りなどのモノ作りを体験

とあいさつした。かつて大和木綿が盛んだった歴史にも触れながら「生産から廃棄まで一貫して関心を払う時代になった」と、地場産

業の再生と発信に期待を示した。大会誘致に尽力した実行委員長

の梅田正之氏（H・A・M・A・木綿庵代表、天理市）は、自身の高齢の父が綿織りを「生きがい」としていた経験を紹介。「福祉と綿栽培を結び付け、経済が循環する持続可能な連携モデルを天理から発信したい」と語った。15日には綿織り・綿打ち・糸紡ぎ・機織りなどの体験コーナーやミニ講座が行われ、家族連れが多く訪れた。販売ブースにはタビオ子会社のタビオ奈良（奈良県広陵町）や、播州織産地のsawairi（兵庫県多可町）などが参加し、各社が製品づくりのこだわりを紹介。来場者には熱心に耳を傾けながら商品を購入する人の姿が目立った。16日には綿

花畑などを巡る体験型見学会（エスカレーション）も実施された。サミットは、国産綿の復活と繊維産業の再生・創出を掲げ、2011年の大阪府岸和田市での開催を機に始動した。事務局の松下隆総代理は一栽培者、加工業者、消費者が直接つながる「顔の見えるネットワーク」を築き、国産のモノ作りの灯を絶やさないことが使命だ」と述べ、今後もサミットの継続開催に意欲を示す。

繊維マイスター

繊維マイスター認定式



マイスターが一人ずつ抱負を語った

倉敷ファ市（倉敷市）は14日の第7回で開いた。今年1は、同市

年5月ごろから消費者の「選別消費」を肌で感じている」と話すのはレディースのファッション靴下主力のハラダ（奈良県桜井市）の原田慎太郎社長だ。トレンディを先読みする商品展開で10年足らずで会社の売り上げを2倍にした手腕を持つ。「今後は何らかの機能やデザ

インプラスアルファの要素がないと消費者に響かない」と話す。最近、同社で急激に売れているのが、繊維に調温力アセルを練り込んだ糸使用の調温機能靴下だ。同社らしい女性受けするデザインと調温機能を組み合わせることで2025年度の販売足数は前年比2倍

繊維ニュース

THE SEN-I NEWS

2025年
11月26日(水)

購読のお申し込み 06-6201-5012(代)
hanbai@sen-i-news.co.jp

発行所 ダイセン株式会社
大阪本社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-9 輸出繊維会館8階
TEL(06)6201-5012 Fax(06)6226-0106
E-mail webmaster@sen-i-news.co.jp
東京本社 〒101-0036 東京都千代田区神田北桑物町11 桑物町中央ビル4階
TEL(03)5289-7003 Fax(03)5289-7233
中部・北陸支社 TEL(052)451-3850/中国・四国支社 TEL(086)224-0250
上海支局/ 蘇森商務諮詢(上海)有限公司 TEL86-21-5670-1910

世界トップクラスの繊維長と細さを持つ希少繊維。
棉花の女王



ファーストピッキングのみを使用しています。
(株)ドーコーボウ

ぎょうの紙面

2 サステ協賛会を設立 大阪から資源循環モデル構築

大阪府と民間企業による衣料品循環の取り組みが25日、「サステナブルファッション・プラットフォーム協議会」として正式に設立された。府内で使用済み衣類を回収し、衣料品の地域共創型サーキュラーエコノミーの実現を目指す。

3 紳士服量販大手4~9月 スーツ販売不振色濃く

紳士服量販大手の2025年4~9月期連結決算が出そろった。主力のアパレル事業は各社とも苦戦した。酷暑や仕事着の変化でスーツが売れず、単価が安く利益率の低いカジュアル衣料の販売割合の上昇が影響した。

6 東洋紡せんい 26春夏寝装向け30%増へ

東洋紡せんいのマテリアル事業部ライフマテリアルグループ寝装チームは、26春夏向け寝具寝装素材・製品販売の数量を前年比30%増やす計画だ。

7 国内の棉花栽培 東京ドームほぼ3個分の約14万平方メートル

15、16日に奈良県天理市で開かれた「2025全国コットンサミットin天理」で、「全国棉花栽培概況調査2025」の中間報告が公表された。2025年の全国栽培面積は13万9134平方メートル(東京ドーム約3個分)で、前年から減少した。

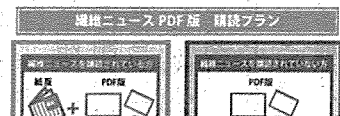
5 企画

「ニッケ WAONAS」



繊維ニュースPDF版

過去記事もキーワード検索できます!



滋賀・長浜産地

滋賀県長浜産地の繊維会社が用途開拓に活路を見いだしている。同産地で作られる織物は和装用途が中心のため洋装や雑貨への展開は限定されるケースもあるが、産地企業からは「良い生地であれば生地幅は関係ない」といった声が聞かれる。自社製品の開発・販売のほか、和装では独自加工で県外からの仕事も受けるなど、前向きな姿勢で産地に活気をもたらす。

(桃井直人)

滋賀県湖北に位置する長浜市は、絹織物の産地として知られ、産地を代表する「浜ちりめん」は高級和装用途で使われる。浜ちりめんの特徴であるシボ(表面の凹凸)は、燃りをかけた緯糸と精練によって生まれる。燃糸が強いほど鮮やかなシボが表現でき、水で湿らせながら擦る水擦りを用いる。

産地企業は「和装用

和装減る中、用途開拓に活路

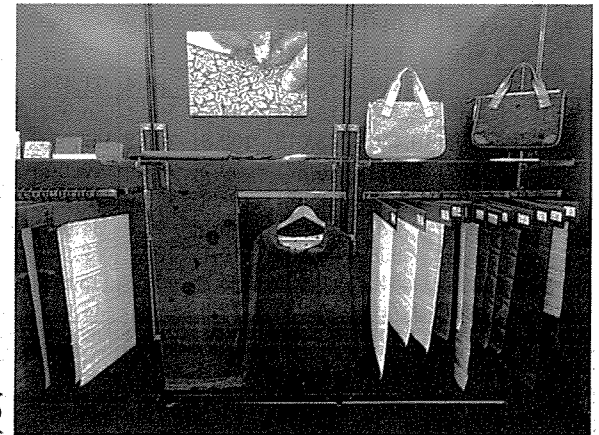
途は堅持したい」と話すが、市場縮小に歯止めがかからないのが実情。「現状では減るばかり、どうやって食い止めるかが課題」とし、自社製品や洋装分野の開拓などに可能性を求めている。これらは販売が伸びつつあり、成果も出てきた。

吉正織物工場は、「浜ちりめんの展開範囲を広げたい」との思いが

前向きな姿勢で産地に活気

浜縮緬工業協同組合は、精練加工工場を持ち、シルクのウォッシュアップ加工やサシルクへの加工サービスを行っている。家庭洗濯60回後も擦れをほとんど起こさず、縮みや色落ちも少ない。長浜産地以

外の仕事を受ける。し、寝具、カーや、陸産地なから問い合せが入っていると言っている。



ビロードを使った製品(タケツネ)